

☆読書感想文の書き方 (基本編)

「こうでないといけない」という決まったものではありませんが、感想文集の校正時に話題になることを挙げておきます。

1 題名について

題名は内容にふさわしいものを考えてつけることが望ましい。書籍名を題名・副題に入れる必要は特にない。

ただし、題名や副題で書籍名を用いる必要がある場合は、正確な書籍名を『 』に入れること。

※応募の際は、字数制限もあるので、題名・学校名・名前は「応募票」に書き、できるだけ一行目から本文を書いてください。

(必要なら、欄外に題名・学校名・名前を書いておく。)

2 引用について

(左記の引用の仕方について、問い合わせもありましたが、各地域で採用の教科書に合わせてご指導ください。)

- ① 引用した部分に「」をつける。
- ② 行をかえて2〜3字下げて書く。

①

だ	に	う	さ
。	私	か	そ
	の	こ	り
	か	の	は
	ら	次	、
	だ	に	「
	を	は	こ
	お	ま	ん
	つ	こ	な
	か	と	に
	い	の	む
	く	み	な
	だ	ん	し
	さ	な	く
	い	の	命
	「	幸	を
	と	せ	す
	言	の	て
	う	た	ず
	の	め	ど

②

さ				ほ
そ				ん
り	の	次	こ	と
の	か	に	ん	う
言	ら	は	な	の
葉	だ	ま	に	「
が	を	こ	む	幸
ぼ	お	と	な	せ
く	つ	の	し	」
に	か	み	く	と
考	い	ん	命	は
え	く	な	を	何
さ	だ	の	す	か
せ	さ	幸	て	。
る	い	せ	ず	
。	。	の	ど	
		た	う	
		め	か	
		に	こ	
		私	の	

3 句読点や符号の使い方について

- ① 句読点(。と)()・「」・『』の場合は一マスでよい。
ただし、「」・『』の場合は一マスでよい。
- ② 句読点や符号が行頭にくる場合は、前の行末に、文字といっしょに入れる。
- ③ | や …… は、二マス使う。
- ④ 外国語などアルファベットを使って書く場合は、一マスに二字をあて、その部分のみ横書きにする。
- ⑤ 会話は原則として「」でくくり、行を改める。その場合、最初の一マスは空けなくてよい。
(ただし、小学校については、一マスあける) また、会話のあとは、行を改める。

④

「
ap
pl
e
」

⑤

ぼ	な	世	「	・
く	あ	界	あ	・
の	な	に	な	・
胸	た	た	た	お
は	で	っ	は	母
ド	も	た	あ	さ
キ	か	一	な	ん
ン	け	人	た	が
と	が	だ	。	言
し	え	け	ほ	っ
た	が	の	か	た
。	な	あ	の	。
	い	な	だ	
	の	た	れ	
	よ	だ	で	
	」。	か	も	
		ら	な	
		、	い	
		ど	わ	
		ん	。	

【主な符号の使い方】

・ なかてん	① 名詞を並列列記する場合。② 日付・時刻などの略記の場合。
() かっこ	注記・省略に用いる。
「 」 かぎ	① 会話や語句の引用に用いる。 ② 特に注意を求めようとする語句に用いる。
『 』 ふたえかぎ	① 引用文中にさらに引用文が含まれる場合。 ② 書名などを示す場合。
 なかせん	① 挿入句の前後に入れる。 ② () の代わり。「つまり」の意に用いる。
… てんせん	① 文や語句の省略。② 会話文のときれ・無言を表す。

4 表記について

【注意する表現】

かなづかい	近づく・少しずつ・のとおり
呼応①主語と述語	○理由はくからです。 ○夢はくになることです。（くになりたいという夢を持っています。）
呼応②陳述の副詞	全然くない・決してくない
敬語	先生がおられる↓いらっしゃる 先生はおっしゃられた↓おっしゃった
敬体と常体	混用はさける。 ※感想文では、特に必要ないときは、常体（小学校高学年程度以上）が好ましい。
誤字・脱字	出品する前に必ずチェックする。 支部審査・県審査等でも必ずチェックする。

※ 県審査にあがってくる作品でも多くの誤字・脱字が見られます。校内審査等でしっかりと確認をよろしくお願
いします。

※ 表現の人権的配慮にご注意ください。